

第1巻 第2号 (通巻第2号) 2012年12月発行

ISSN 2187-0292

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 1, Number 2

2012

特集

第41回 埼玉透析医学会 学術集会
プログラム・抄録集

第3回 埼玉アクセス研究会 PROCEEDINGS-2012



埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

埼玉透析医学会 会誌

Journal of the Saitama Society for Dialysis Therapy

Volume 1, Number 2

2012

特集

第41回 埼玉透析医学会 学術集会
プログラム・抄録集

第3回 埼玉アクセス研究会 PROCEEDINGS-2012

埼玉透析医学会

<http://www.ssdt.jp/>

INDEX

巻 頭 言 115

第41回埼玉透析医学会学術集会

プログラム・抄録集

会場案内図・会場見取図 119

参加者へのご案内とお願い 120

プログラム 121

抄 録

ブランチセミナー 126

アフタヌーン・ティーセミナー 127

一般演題 130

協力企業一覧 151

第3回埼玉アクセス研究会 学術集会

PROCEEDINGS-2012

proceedings 目次 155

シンポジウム 157

一般演題 174

学術集会開催記録 227

2012年施設名簿 228

埼玉透析医学会会則 230

索 引 232

次回開催のご案内

第4回埼玉アクセス研究会

会 期：2013年7月21日(日)

会 場：大宮ソニックシティホール棟4階 国際会議室
〒331-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5
TEL 048-647-4111

会 長：下山 博身(友愛クリニック)

副 会 長：中川 芳彦(南町クリニック)

演題申し込み方法：オンラインによる演題受付とします。詳細は
後日アップされる大会HPをご覧ください。

募集期間：2013年4月1日～5月31日

共 催：埼玉透析医学会

事 務 局：埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部
小川智也
〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981
TEL：049-228-3523
FAX：049-226-6822

埼玉透析医学会誌

巻 頭 言



埼玉透析医学会会長

鈴木 洋通

現在医療の領域では様々な変化が大きくなるとなっており生じている。これは気づいているようで、意外と気づかれずにそのまま世の中が進んでいるといっても過言ではないように思われる。すなわち、情報がネットを介し瞬時に多くの人に伝わっていきあたかもそれですべてが理解でき、自分のものに出来ている錯覚に陥っている。実際にそれは手にとってあるいは自らが手を動かすことによってはじめて理解し、その上で運用されていくのでその点をこのネット社会では忘れていく傾向にあると感じているのは小生のみではないと思われる。さて、翻って私共が日々従事している透析医療ではどのようなことが起こっているのでしょうか。現在の透析治療は月、水、金、あるいは火、木、土、午前、午後、夜間（最近は少ないが）としっかりと区分がなされ、さらに血液データ、体重のデータの情報をもとに、日々の回診により血液透析がおこなわれている。そこではなるべく脱落を少なくし、かつ合併症をどう予防するかに一見力が注がれ、医療側もそれを受ける側もなんとなくそれに満足を得るといった日常が繰り返されている。このような日常の中から本来様々な疑問が生じ、それが次に生かされるということがなされてきた結果現在があるという認識を実は多くの人が世の中あまりにも楽に色々なことがおこなわれるようになった結果忘却の彼方になってしまった。それは学会や研究会でも多くのことが踏襲され、いわゆるマンネリとなって表れている。これこそが最も恐れなければいけないことであるにも関わらず残念ながら日常というあいまいな中に埋没していることを私共は自分も含めて心しなければならぬ。そこで、透析という領域で考えてみると現在医療のなかでおこってきた変化を先取りしたものに実はチーム医療がある。このチーム医療をさらに透析領域でどう進化させていくかがここ数年の課題ではないかと考えている。どこの透析施設でも勿論カンファレンスがおこなわれ幾多の討論がなされている。しかしそれがまさに日常への埋没である。これから抜け出すためには是非多くの施設から様々な職種の方が疑問をまた誇るべき成果を持ち寄って熱く、しかし科学になるべく準拠し、かつ経験をそれに加味し語り討論することが、つぎへの一步を確実に踏み出せることを信じその場としての埼玉透析医学会したいことを強く望み、かつその実現に努力を払っていきたいと考えています。皆様よろしく申し上げます。

平成24年10月吉日

41st Annual Meeting of
Saitama Society for
Dialysis Therapy

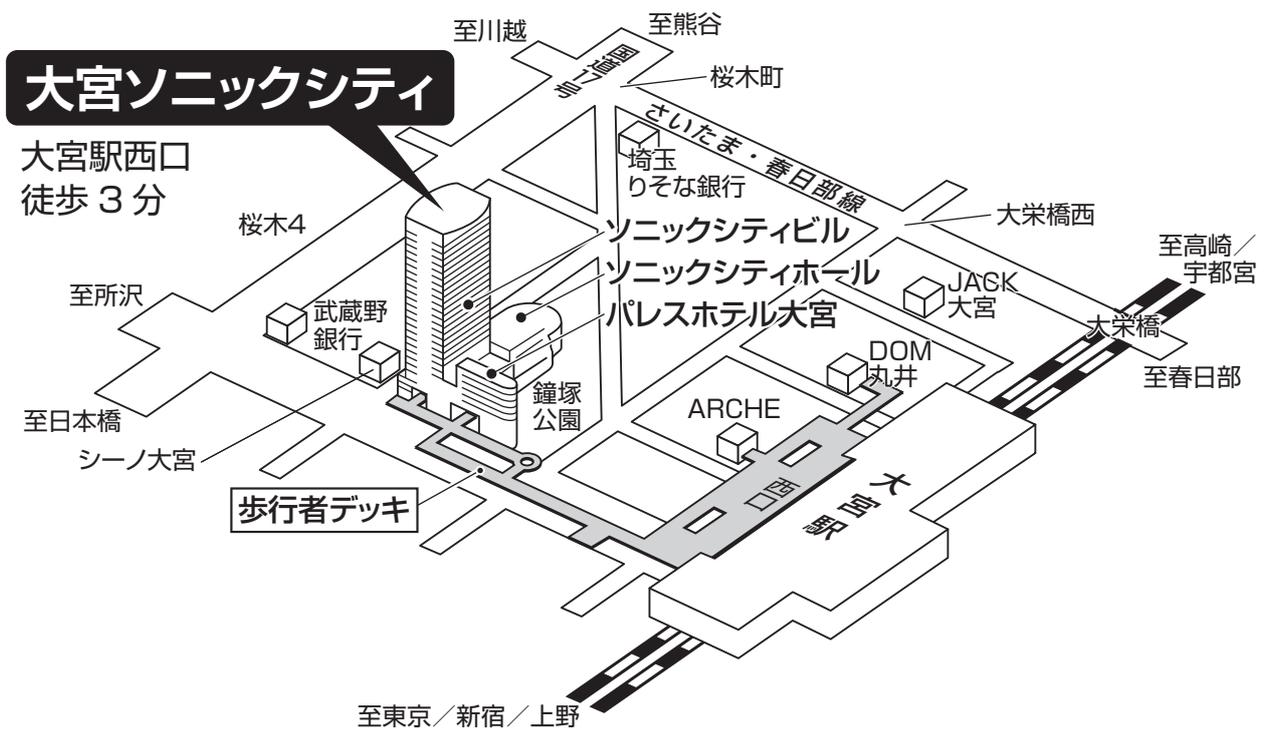
Abstract
2012

第41回埼玉透析医学会学術集会

- ・会 長：鈴木 洋通 (埼玉医科大学 腎臓内科)
- ・日 時：平成24年12月2日(日) 10:00～
- ・会 場：大宮ソニックシティ 国際会議室 (ホール棟4階)

事務局：〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1
埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部
TEL / FAX：042-984-0064
URL：http://www.ssdt.jp
E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

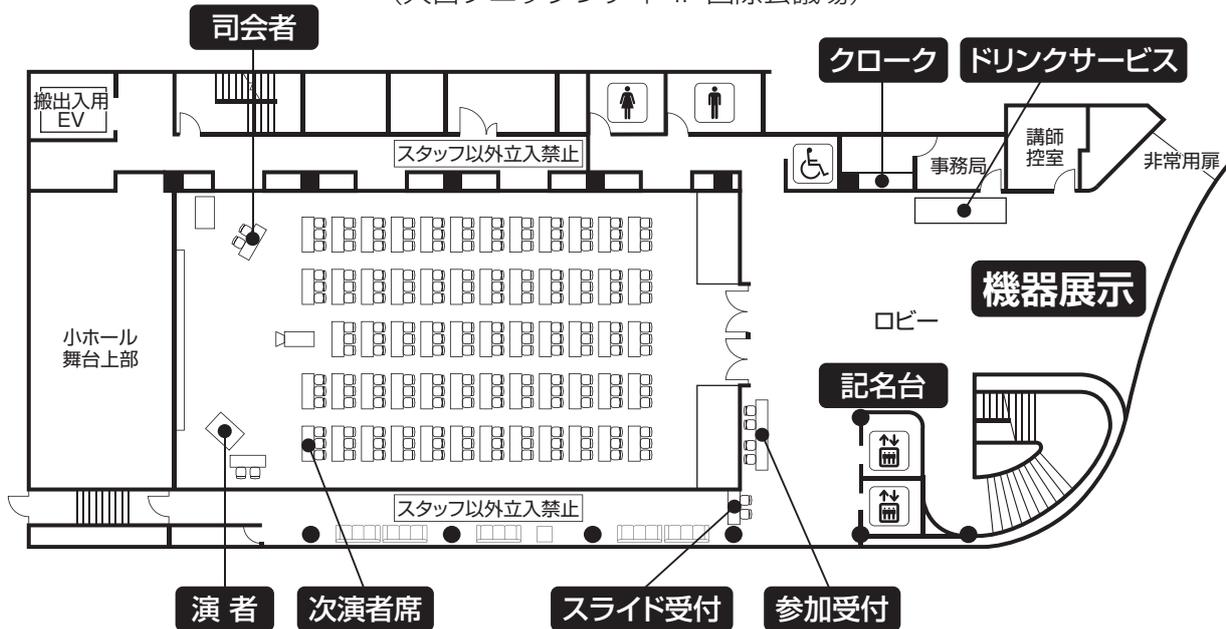
会場案内図



お問い合わせ
 財団法人埼玉県産業文化センター（大宮ソニックシティ）
 〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1丁目7番地5
 ソニックシティビル5階 私書箱75号
 TEL：048-647-4111 TEL：048-647-4159

会場見取図

(大宮ソニックシティ 4F 国際会議場)



第41回埼玉透析医学会 プログラム

平成24年12月2日回

9時30分 開場 10時00分 開会

開会挨拶 10:00～

会 長：鈴木 洋通(埼玉医科大学 腎臓内科)

一般演題1 10:10～10:50

座長：矢吹 律子(関越病院 透析室)

櫻井 康子(埼玉医科大学国際医療センター 看護部)

○1-1) 透析患者の“睡眠障害”に関するアンケート調査

医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック 今井 智恵 他

○1-2) 自己管理不良症例に対する在宅血液透析(HHD)移行へ向けての看護師としての取り組み

さくら記念病院 看護部 千葉 織江 他

○1-3) 腎センターにおける看護師のストレスについて

埼玉社会保険病院 三浦 美和子 他

○1-4) 「埼玉腎不全看護勉強会」の活動報告

医療法人一心会 蓮田一心会病院 只浦 真弓 他

ランチセミナー 11:00～12:00

(共催：中外製薬株式会社)

司会：本多 仁(埼玉医科大学病院 血液浄化部)

在宅血液透析の現状と今後

演者：(医)桂水会 岡病院、埼玉医科大学病院腎センター 菅原 壮一

一般演題2 12:10~13:20

座長：安藤 勝信（自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床工学部）
山下 文子（医療法人蒼龍会 若葉内科クリニック）

O2-1) ヘモダイアフィルタ MFX-21S の性能評価

北朝霞駅前クリニック 加藤 勇貴 他

O2-2) 多用途透析監視装置 DCS-100NX の全自動化システムの使用経験

医療法人社団腎盛会 蓮田クリニック 高橋 直生 他

O2-3) On-line HDF 施行時における流量バランス制御の安全性評価

埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部 濱田 雅美 他

O2-4) 安全な出張透析を施行するための配管環境に関する検討

埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部 田中 慧 他

O2-5) 当院における心機能評価を含めたバスキュラーアクセス (VA) 管理の現状

さくら記念病院 岸 寛信 他

O2-6) Vascular Access (VA) 管理における超音波エコーの活用と臨床工学技士の役割

埼玉医科大学総合医療センター ME サービス部 落合 重夫 他

O2-7) 抜針時における静脈圧変動の検討

埼玉医科大学病院 血液浄化部 中澤 野歩人 他

埼玉透析医学会総会 13:20~13:40

議事進行：会 長・鈴木 洋通（埼玉医科大学 腎臓内科）
事務局・高根 裕史（埼玉医科大学 腎臓内科）

災害対策についてのお知らせ 13:40～13:50

会 長：鈴木 洋通 (埼玉医科大学 腎臓内科)

アフタヌーン・ティーセミナー 14:00～15:00

(共催：協和発酵キリン株式会社)

司会：鈴木 洋通 (埼玉医科大学 腎臓内科)

終末期における慢性血液透析療法の見合わせ

演者：日本大学医学部 内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野 岡田 一義

一般演題3 15:00～15:50

座長：松田 昭彦 (埼玉医科大学総合医療センター 人工腎臓部)

渡辺 裕輔 (埼玉医科大学国際医療センター 血液浄化部)

O3-1) 透析患者は薬を減らしたいと思っている；薬剤師の視点から

医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック 松倉 泰世 他

O3-2) 慢性維持透析患者に対する ASV の有用性の検討

さくら記念病院 島口 豊 他

O3-3) CKD 患者における線維芽細胞増殖因子 (FGF-23) の血中濃度に関する検討

医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック 石原 力 他

O3-4) 迅速な診断・加療にて救命し得た、感染性心内膜炎を罹患した血液透析患者の一例

獨協医科大学越谷病院 腎臓内科 吉野 篤範 他

O3-5) 下血、貧血の一因である S 結腸腫瘍 (グループ4) に対して留置スネア絞扼術を施行した1透析症例

医療法人 シャローム鋤柄医院 鋤柄 稔 他

一般演題4 15:50～16:40

座長：堀口 光寿(新座志木中央総合病院 臨床工学科)
九谷 謙一(こいづかクリニック)

O4-1) 透析液の濃度調整における血液ガス分析装置透析モードの有用性と限界

(医)秀和会 秀和総合病院 臨床工学部 江刺家 義典 他

O4-2) 当院における生菌検査日の比較検証

社会医療法人財団石心会 さやま腎クリニック 佐藤 歩 他

O4-3) 当院での水質管理微生物検査の妥当性の検証

社会医療法人財団石心会 さやま腎クリニック 野本 洋平 他

O4-4) 透析液キンダリー AF4号を使用した症例報告

自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床工学部 岡田 ひとみ 他

O4-5) カーボスターの長期使用における栄養改善効果の検討

埼玉医科大学病院 血液浄化部 徳岡 龍之介 他

閉会挨拶

会 長：鈴木 洋通(埼玉医科大学 腎臓内科)

ブランチセミナー

アフタヌーン・ティーセミナー

在宅血液透析の現状と今後

菅原 壮一

(医)桂水会 岡病院、埼玉医科大学病院腎センター

腎代替療法としては、血液透析、腹膜透析と腎移植が知られている。腎代替療法のなかで在宅治療としては腹膜透析がおこなわれているが、在宅治療である在宅血液透析は腎代替療法の選択肢として存在するが、まだ在宅血液透析をおこなえる患者さんは少ない。日本透析医学会の統計報告では2010年末で透析患者297,126名中、在宅血液透析をおこなっている患者数は279名(0.1%)である。在宅血液透析が普及出来ない原因としては血液透析を自宅で患者と介助者で完結しなければならないために透析機器の操作、シャントの穿刺等のトレーニングの困難さ、さらに在宅血液透析中に起きたトラブルに24時間対応しなければならないことなどがある。これらのことをふまえて、在宅血液透析を安全に安定しておこなうためには、しっかりとした、医師、看護師、臨床工学技士さらに医療事務職のチームが必要であり、そのチームを構築することが在宅血液透析の導入には不可欠である。埼玉医科大学病院腎センターでは2001年から在宅血液透析導入を開始し2012年10月現在、62例の在宅血液透析患者を外来観察している。当センターではどのようなシステムで在宅血液透析が自宅で安定して出来るようになったか、さらに在宅透析患者の臨床的な検討を提示する。在宅血液透析の今後であるが、在宅血液透析を希望するすべての患者さんがトレーニングできる状態でないのが現状であり、トレーニングできる施設を増やす必要がある。在宅血液透析に使用している透析機器は施設透析に使用している機器を使用しているが在宅血液透析専用の機器の開発が望まれる。現時点ではメーカーの協力のもとおこなわれている医療材料の宅配、廃棄がおこなわれているが労力と費用の点において今後症例が増加してきた場合メーカーの協力のみでは継続出来なくなると考えられるため、さらなる診療報酬の見直しが必要となると思われる。

一般演題

一般演題

01-1

透析患者の“睡眠障害”に関するアンケート調査

○今井 智恵(イマイ チエ)¹⁾、鈴木 裕子¹⁾、島崎 玲子¹⁾、相川 明治²⁾、
山森 順子²⁾、中野 美佳³⁾、市村 恭子³⁾、八角 一久⁴⁾、村山 美智代⁴⁾

1)医療法人慶寿会 さいたまつきの森クリニック、2)蓮田クリニック 看護部、
3)大袋クリニック 看護部、4)春日部内科クリニック 看護部

【背景】透析患者における睡眠障害発生頻度は高いとされているが不明な点も多い。

【目的】透析患者睡眠障害に対する適切な看護ケアの実践を目的に多施設患者でのアンケート調査を実施した。

【方法】アンケートは ①患者背景(年齢、透析歴、痒み、等)についての9項目、②睡眠障害についての8項目(アテネ不睡眠尺度チェックシート使用)、不眠症の可能性のある4点以上では③うつ状態チェックシート(9項目)への回答をお願いした。筆記不能者では担当ナースが直接質問して記載した。

【結果】対象患者総数は393名で、そのうち298名(75.8%)から回答があった。透析患者全体の8.2%で“寝つきが悪い”、27.2%で“夜間覚醒してしまう”、25.5%が“早朝に目覚めてしまう”と回答した。アテネ不眠尺度4-5点の睡眠障害の“可能性がある”が全体の17.4%、6点以上の“可能性が高い”が33.6%であり、両者をあわせると透析患者全体の51%が何らかの程度の睡眠障害を有していると考えられた。年齢別、男女別、透析年数別で分析したが大きな差がなかった。掻痒症を有する患者での頻度が高い傾向にあったが、“うつ”による睡眠障害の頻度は低かった。全透析患者数に対する睡眠薬使用患者の割合は22.7%～26.7%と施設間で差がなかった。

【結語】透析患者の睡眠障害は全体の51%と高頻度であり、入眠障害よりも途中覚醒型が多いと考えられた。これらの結果をもとに透析患者の不眠の訴えに対する適切な看護ケアを実践していきたい。

3rd Saitama Society
For Dialysis Access

Proceedings 2012

第3回埼玉アクセス研究会 Proceedings

第3回埼玉アクセス研究会 Proceedings

目 次

シンポジウム

透析用留置カテーテルを考える ～上手なカテーテル管理を目指して～

当センターにおける短期型バスキュラーカテーテルの現状とその性能

埼玉医科大学国際医療センター 土屋 陽平 他

当院における透析用カテーテルの現状および管理方法について

埼玉医科大学病院 鳴海 敏行 他

当院でのバスキュラーアクセスカテーテル管理の取り組み

堀ノ内病院 遠藤 晃 他

当院における非カフ型透析用カテーテル管理の実際

医療生協さいたま 埼玉協同病院 山梨 忍 他

一般演題

超音波所見のシャント穿刺への応用

友愛三橋クリニック 中島 譲 他

当院での AVF モニタリングとしての超音波検査の実際

川越南腎クリニック 岩井 千恵 他

超音波診断評価と透析効率などにおける比較検討

望星病院 原 正彦 他

カフ型カテーテルの先端形状と血液流速による流体的評価

埼玉医科大学総合医療センター 添田 祐輔 他

透析チーム医療での VA 観察とエコー下 VAI/T

東京蒲田病院 石塚 英司 他

当院における新たなるシャント管理の試み ～VA 管理チームを結成して～

堀ノ内病院 加藤 太一 他

バスキュラアクセスの自己管理の現状 ～清潔なシャント管理を目指して～

赤心クリニック 平田 麻須美 他

自施設における在宅血液透析患者の自己穿刺指導 ―ボタンホール穿刺への挑戦―

埼玉医科大学総合医療センター 関 典枝 他

動脈側エアートラップチャンバの逆流長評価における血流モニタリングの検討

埼玉医科大学国際医療センター 葉 秀寿 他

透析患者の中心静脈狭窄に対する経皮的血管内ステント留置術の長期予後に
関する検討

自治医科大学附属さいたま医療センター 濱本 耕平 他

経皮的血管形成術 (PTA) 施行時期の検討 ～バスキュラーアクセス機能の観点から～

さくら記念病院 廣澤 満義 他

VAI/T に透析 CE が介入する効果

石心会さやま腎クリニック 沖田 紀之 他

シンポジウム 透析用留置カテーテルを考える ～上手なカテーテル管理を目指して～

当センターにおける短期型バスキュラーカテーテルの現状とその性能

○土屋 陽平(つちや ようへい)¹⁾、塚本 功¹⁾、村杉 浩¹⁾、渡辺 裕輔²⁾、
鈴木 洋通²⁾

1) 埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部、2) 同 血液浄化部

【緒言】

持続的腎機能代替療法(Continuous Renal Replacement Therapy; CRRT)は、長時間連続かつ緩徐に体外循環を行う治療法である。CRRT 施行時のバスキュラーアクセス(Vascular Access; VA)トラブルは、治療のダウンタイムを生じる要因のみならず、必要以上に回路交換や再挿入に伴うリスクや医療資源、そしてマンパワーを要する。CRRT を安全かつ迅速に施行する上で使用されるVAは、操作性や管理法が容易であること、必要十分な血流を確保できることから、短期型バスキュラーカテーテル(Vascular Catheter; VC)が頻用されている。そこで今回、心臓血管外科術後急性腎傷害(Cardiac Surgery-Associated Acute Kidney Injury; CSA-AKI)症例を中心に、急性血液浄化領域(主にCRRT)で用いる透析用留置カテーテルについてこれまでの知見を併せて報告する。

【対象と方法】

対象は2008年3月から2012年2月までに埼玉医科大学国際医療センターでCRRTを施行したCSA-AKI165例(年齢 70.7 ± 10.5 歳、男性118名、女性47名)。方法として、使用した短期型VC336本に対する①短期型VCの留置部位、②短期型VCの留置期間および抜去理由、③感染徴候による抜去の解析、④閉塞・脱血不良による抜去の解析を行った。なお、短期型VCの内訳はツインエンド[®](ユニチカ社製:281本)、テオス[®](ユニチカ社製:5本)、Niagara slim cath[®](メディコン社製:41本)、ジェントルキャス[®](コヴィディエン社製:5本)、Flexxicon II[®](メディコン社製:4本)。

統計

データの表記は平均値±標準偏差で表した。連続変数の群間比較はt-testを使用し、カテゴリデータではX²-testを用いて解析をおこなった。p<0.05を統計学的有意差ありと判定した。

【結果】

1. 短期型VCの留置部位

留置部位の内訳は大腿静脈が71%と最も多く、内頸静脈は19%であった(図1)。内頸静脈に透析用留置カテーテル以外のカテーテル挿入の有無を併せて調査したところ、87%に中心静脈もしくはSwan-Ganzカテーテルの使用を認めた(図2)。

2. 短期型VCの留置期間および抜去理由

短期型VCの留置期間は3~8日程度の頻度が多く、平均留置期間は 7.1 ± 4.3 日であった(図3)。抜去理由の内訳は、CRRT離脱や定期交換といったVAトラブルによらないものが多かったが、VAトラブルに関する、感染徴候による抜去、閉塞・脱血不良による抜去、接続部の破損による抜去を併せて28%で認めた(図4)。

3. 感染徴候による抜去の解析

留置部位による内訳は使用頻度が多い部位ほど高率で、先端培養で陽性となる確率は部位によらず50%以下であった(図5-a)。また、留置部位別における感染徴候の有無はどの部位においても20%程度で留置部位による違いを認めなかった(図5-b)。

さらに、患者因子として抜去理由が感染徴候である場合と、ない場合の抜去前における炎症マーカーを比較したところ、高感度CRPはある

開 催 記 録

施 設 名 簿

会 則

索 引

埼玉透析医学会 会誌
広告掲載企業 (五十音順)

旭化成メディカル株式会社

MSD 株式会社

ガンプロ株式会社

協和発酵キリン株式会社

第一三共株式会社

中外製薬株式会社

鳥居薬品株式会社

日機装株式会社

ニプロ株式会社

扶桑薬品工業株式会社

埼玉透析医学会 会誌

発行日：2012年12月2日

発行：埼玉透析医学会

発行人：会長 鈴木 洋通

編集：埼玉透析医学会 事務局

事務局：埼玉医科大学国際医療センター ME サービス部

〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

TEL・FAX：042-984-0564

URL：http://www.ssdt.jp/

E-mail：jinnai@saitama-med.ac.jp

編集責任者：塚本 功

編集委員：高根 裕史 小川 智也 金山 由紀 山口 由美子

村杉 浩 秋元 照美

出版：株式会社セカンド
http://www.secand.jp/

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

定価：2000円